

高松市立前田小 学校だより Tel 847-6562	なろう，なろう あすなろう あすはヒノキになろう	あす なろ 羽 檜 え ぎ	2012年 2月1日(水) No. 121号
--	---	---	--

前田の校区内で春をみつけましょう

校長 岡 静子

昔の人の言われることは、本当に当たっており、新年明けたらいつの間にか1月はいってしまい、早2月になりました。校区内を歩いていると紅梅や水仙がきれいに咲いている場所があります。「春は名のみの」とよく言われるように暦の上では春になっても、今年は大変厳しい寒さが続いており、まだまだ寒く春が来たなどは思えませんが、木や草花は、ちゃんと季節の変わり目を感じ取っています。3日(金)は、節分です。「鬼は外、福は内」と豆まきをし家族全員の健康と幸せを願うご家庭も。学校においても「いわしのカレーマリネ」「おぎご飯と豚汁」「節分豆」が給食で頂くことができます。節分は季節の境目を指しますから、節分が過ぎた日からが暦、つまりカレンダーの上では「立春」春になります。この頃になると、鳥たちも春が来たことを感じて喜びます。なかでも特に鶯(うぐいす)は、この時期から「ホーホケキョ」と鳴き始めます。立春の頃から鳴き始めるので、鶯は別名「春告げ鳥」とも言われるそうです。皆さんも、登下校中、休み時間に「春」を見つけてみましょう。見たこと、聞いたこと、触って感じたことやおいで気づいたことをお友だちや先生にそして、私にもおしえて下さいね。たくさん春が見つかるときと、本当の春がやってきますよ。



さて、風邪が流行り始めた、ついこの間のことです。出欠黒板に記入をしに来た女の子が『校長先生、風邪で休んでいた〇〇くんが、今日は元気に学校に来ました。』と嬉しそうに話しかけてくれました。友だちが元気になって嬉しいという気持ちが、とっても温かく伝わってきました。直接優しい言葉をかける事も大事ですが、目の前にいない友だちの事を大切にしている子どもがいることに嬉しくなりました。私の心は春です。

前田小学校では、辻先生を中心に先生方が、毎日ホームページを更新しています。昨年末、第9回全日本小学校ホームページ大賞 香川県優秀校に選ばれました。日々子どもたちの活動の様子や給食メニュー、PTAのお手紙、学校評価結果等を載せていますので是非ご覧下さい。

<http://www.edu-tens.net/syoHP/maedaHP/>

前田っ子とともに

現職教育主任 高橋利恵子

4年生の国語「報告します みんなの生活」で、ゲームや食事といった生活について学級でアンケートをとり、ポスターを作成して考察した結果を発表するという学習を行っています。テーマを決めたり、アンケートを作成したりとグループで話し合いながら活動することが多いです。様子を見てみると、話し合いがうまくいかなかったり、作業の分担が思うようにできなったり、なかなか意見が一致せず困ったりすることなど様々なトラブルが起こります。しかし、それらすべてが、子どもたちが自身の人間関係調整力を育て、成長していくための経験だと思えます。人が集まれば、トラブルはつきものです。その中で、話し合いによって折り合いをつけていく力をぜひ身につけてもらいたいと考えています。それらを乗り越えれば、また新たな達成感を味わえることでしょう。

先日たまたま見たニュース番組の中で、高松市内の元校長先生がおっしゃっていました。「思うままに一人で生きていくと生き方は慣性的(惰性的ということでしょうか)になる。しかし、人との関わりの中で生きると人間は多くのことに気づき、考えることができる。」子どもたちの成長のために、友だちとの関わりを多く経験できるグループでの学習はぜひ積極的に取り入れていきたいものです。

生徒指導だより

生徒指導主事 黒田 良治

一日の生活の中で大切にしたいもの・・・ 学校保健委員会のお話から

毎年、生徒指導だよりでお知らせしたことは、生活づくりの大切さ、非行防止、交通安全、携帯電話やインターネットの使い方などです。

これまでの話をまとめると、子どもたちの生活の中で大切にしたいものが見えてきました。下に記述したことは、わたしたち人間が社会の中で暮らしていくための基礎になるものです。すぐには効果が出なくとも長く続けることで、豊かな心が育ち、学習効果が高まるとともに自己肯定感が育ち社会の中での生きる力がしっかり身につきます。

毎日、がんばりましょう。

- ・ 生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）をきちんとしよう。
- ・ バランスのよい食事をしよう。
- ・ あいさつや返事、そして、服装をきちんとしよう。
- ・ 褒め言葉を大切に上手な言葉かけをしよう。



毎日の何気ない生活がとても大切だということをご理解いただき、保護者の皆様のご協力をいただけるようお願いいたします。

人権教育シリーズ⑤② 人権の視点から「言葉」を見直す

児童・進路支援担当 入谷 祐司

何気なく使っている言葉を人権の視点で見ると考えなければいけないものがあります。例えば、「手続きや仕事の上で不足や欠点があること、また、そのような箇所。」のことを「手落ち」といいます。国語辞典にも掲載されている言葉ですが、生まれながらや事故などで手を失っている人がこの言葉を聞くとどう感じるでしょうか。また、「交通手段がないこと」を「足がない」と言っているのも耳にします。この言葉についても、そういった立場の人が聞いたらどうでしょうか。これは、慣用句のようにも思えますが、実は慣用句辞典には掲載されていません。

日本人が昔から使ってきた言葉を文化として尊重しなければなりません。一人ひとりの人権を大切にするために「相手の立場に立って使う」ことが重要なのではないのでしょうか。自分たちが使っている言葉をもう一度見直してみませんか。



教育相談だより

鬼は外！春はもうすぐ！！

教育相談担当 三谷匡代

2月3日は節分ですね。今年追い出したい心の鬼は何でしょうか？どうやって追い出しましょうか？そんなことを話し合いながら、家族で豆まきをするのもいいですね。

節分が終われば、暦の上では立春。とはいえ、まだまだ厳しい寒さが続きそうです。そして、寒いとどうしても体に力が入り、疲れやストレスが溜まりやすくなるようです。家族で、体をリラックスさせるような体操や運動をしたり、楽しい話をしたりしながら、ストレスを溜めずに、この寒さを乗り切りましょう。

もうすぐ春、暖かい春の様子を思い浮かべながら、頑張りましょう。色彩心理学では、実際に色を見なくても、明るい色をイメージすると、心が明るくすることができると言われています。優しいピンク色や鮮やかなグリーンを思い浮かべながら、春を待ちましょう。

